

何でも読もう会

書物名	『網走まで』 志賀直哉	開催 日時	2022.5.3	推薦	首藤
巻・章	全編		青少年セ	出席者	7名
<p>志賀直哉の処女作品の1。明治43年、「白樺」の創刊号に発表。</p> <p>上野から宇都宮駅まで乗り合わせた語り手と或る母子の車中風景。ただそれだけの話であるが、読み手にいろいろの想像、解釈をさせずにおかない。短編小説の良さだ。若い母親は乳飲み子と気むずかしい男児を連れて網走まで何のためにいくのか？ 本当に行くのだろうか？ 女の人はどういう人？ 彼女の夫は？ 投函を託された2通の手紙は誰にあてて？ 何が書かれている？ 何も答えてくれないが、解釈は読み手の勝手である。大いに議論が盛り上がった。</p> <p>冒頭、Nさんがこれはコンパートメントの汽車ではと、車両構造を図解してくれた。また、Sさんが図書館通いして「網走まで」を解剖し、オリジナルな説をまとめ発表。思い思いに語り合った楽しい時間だった。</p>					